

SESSION 2012

AGRÉGATION
CONCOURS EXTERNE

Section : LANGUES VIVANTES ÉTRANGÈRES
LANGUE ET CULTURE JAPONAISES

COMMENTAIRE DE TEXTE EN JAPONAIS

Durée : 7 heures

Documents autorisés : Dictionnaire Kôji-en, Iwanami, 1983, et rééditions; Dictionnaire Taishûkan kango shinjiten, Taishûkan, 2001, et rééditions.

L'usage de tout ouvrage de référence, de tout autre dictionnaire et de tout matériel électronique (y compris la calculatrice) est rigoureusement interdit.

Dans le cas où un(e) candidat(e) repère ce qui lui semble être une erreur d'énoncé, il (elle) le signale très lisiblement sur sa copie, propose la correction et poursuit l'épreuve en conséquence.

De même, si cela vous conduit à formuler une ou plusieurs hypothèses, il vous est demandé de la (ou les) mentionner explicitement.

NB : Hormis l'en-tête détachable, la copie que vous rendrez ne devra, conformément au principe d'anonymat, comporter aucun signe distinctif, tel que nom, signature, origine, etc. Si le travail qui vous est demandé comporte notamment la rédaction d'un projet ou d'une note, vous devrez impérativement vous abstenir de signer ou de l'identifier.

Tournez la page S.V.P.

日本語で次のテキストの解説をして下さい。

4 おわりに

— 現実問題としての婚活

婚活ブームはリーマン・ショック以前と以後ではそのブームの性質が異なる。リーマン・ショック以前の第一の波は「ほとんどの人が適齢期になると何となく結婚できた時代は終わり。結婚したいなら自助努力が必要である」という婚活の趣旨を理解した人たち、つまり、うちの子は何で結婚できないんだろう、と思っていた親と、結婚を具体的に考えたことがあるにもかかわらず結婚していない人たちである。リーマン・ショック以後の第二の波は「この不況下でも安定して高収入を稼ぐ男性」を女性が勝ち取る活動である。不況下のいま、第二の波が優勢ではあるが、第一の波も消えてしまったわけではない。

第一の波と第二の波は、どこが違い、どこが同じなのだろうか。共通点は女性が結婚による「生まれ変わり」に、「幸福な結婚」という理想にこだわっている点である。相違点は第一の波のほうは「恋愛のような結婚」にこだわるが、第二の波のほうは「恋愛のような結婚」にこだわらない。第二の波に特有なのが「女性のみがより確実に理想の結婚相手を見つけられる手段で活動をする」ことにこだわっている点である。このように整理してみると、第一の波、第二の波ともに婚活には「女性の結婚による生まれ変わり」がネックとなっていることが見えてくる。

「恋愛のような結婚」をあきらめた第二の波の女性たちは、現実主義者のように見えるが、宝くじにでも当たるかのように「よい条件の男性」との結婚に固執している点では非現実者である。彼女たちは男性の立場を考慮するよりも非現実的な願望を結婚相手である男性に託しているだけでも言える。その結果、彼女たちには相手の気持ちもあつて成立する「恋愛のような結婚」を想定することが不可能となっている。つまり、彼女たちは「恋愛のような結婚」にこだわらないのではなく、こだわれないのである。その証拠に、第二の波は結婚という男女の問題でありながら、女性だけの問題となっている。

第二の波はロマンティック・ラブ・イデオロギーを解体したという意味では、「結婚したいのなら就職活動のようにそのための活動を」という婚活をしやすくする土壌をつくつた。ロマンティック・ラブ・イデオロギーの解体は、男女ともに「結婚情報サービスに登録しているなんて、恥ずかしい」「お見合いしたいなんて、自分からは言えない」といった空気を一掃し、1995年以降の恋愛結婚至上主義の流れを変えた。そういう意味では第二の波の女性たちは、たとえ婚活の意味を取り違えているとはいえ、婚活をしやすくした功労者である。

しかし、男性不在での婚活ブームは現実性を持たない。『AERA』の婚活特集の「あなたの婚活を疑え」で、山田は「言いたいことは別のものが伝わってしまうんですね。いまや婚活は『教少ない高収入の男性をつかまえるための活動』という意味に転じてしまったようです。何もなくても自動的に結婚できるはず、という依存体質から抜け出さないと結婚は無理、という現実をわかつてもらうための言葉だったのに、これでは逆効果になってしまう」と発言する。このような第二の波が現実性を持たないブームであるがゆえに、『AERA』の「あなたの婚活を疑え」において、内田樹が「誰とでも結婚でき、幸福になれるのが大人の理想」といい、上野千鶴子が「男性こそ婚活をして保守的な結婚観から脱却を」というような様々な反応を引きおこす結果にもなっている。

婚活はねじれた意味である第二の波が優勢であるかぎり、結婚に結びつく活動となる可能性は低い。ロマンティック・ラブ・イデオロギーはいまや解体した感があるが、女性の望む「幸福な結婚生活」のハードルが高すぎるという問題が残つた。つまり、「女性の結婚による生まれ変わり」という問題が解決していないことが、女性を「生まれ変わるのならばいまよりも幸福に」「生まれ変わって不幸になるのなら、結婚しない」という点に固執させてしまっている。第二の波のようなブームをつくらないためには、「女性の結婚による生まれ変わり」が「生まれ変わり」というほどの劇的な変化にならないようにすることが必要であろう。